
ごみの組成分析調査結果（速報値）について

1. 目的

本市から排出される家庭系ごみ及び事業系ごみの排出実態を把握することにより、次期一般廃棄物処理基本計画を策定する際の基礎資料として活用するために実施

2. 調査の概要

- ① 家庭系一般ごみ
調査対象5地区から約870kgをサンプリング
- ② 家庭系粗ごみ
調査対象5地区から約650kgをサンプリング
- ③ 事業系可燃ごみ
調査対象35事業所から約1,800kgをサンプリング



ごみステーション等



分析作業の様子



ごみの分類結果

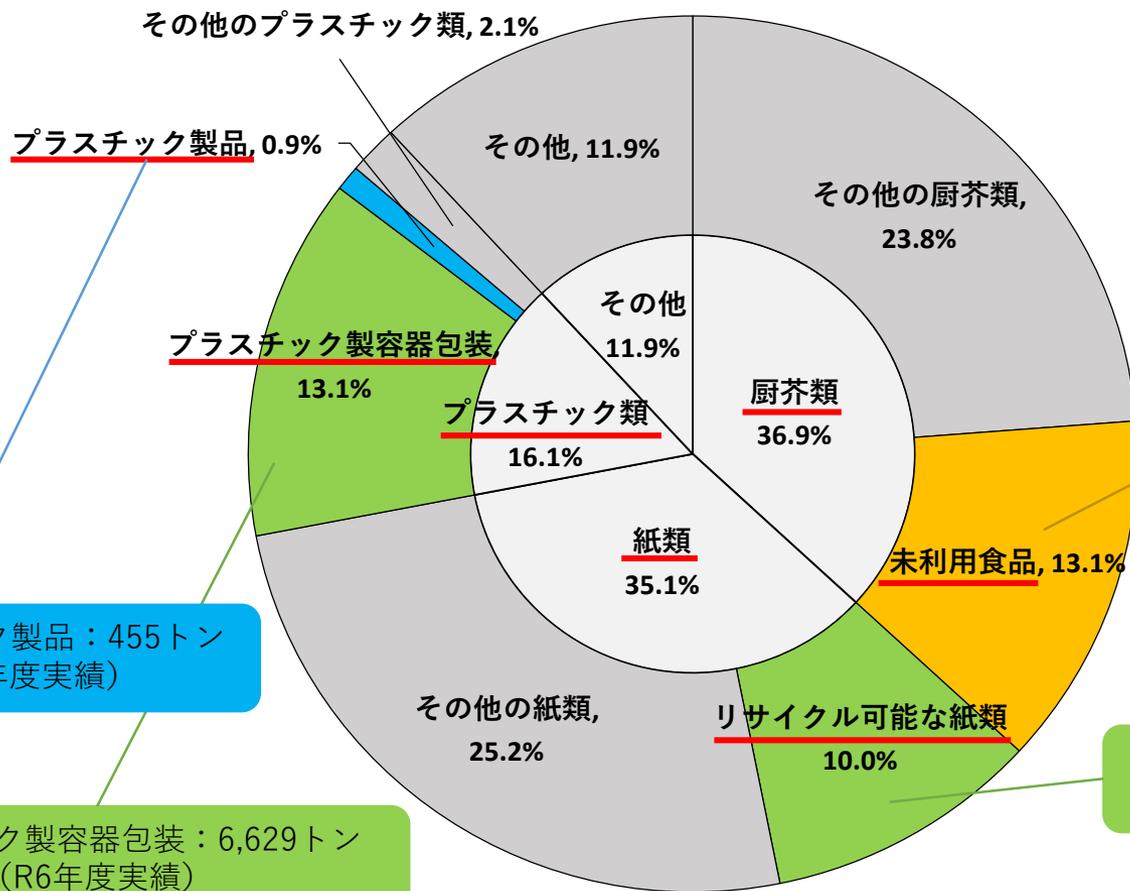
3. 調査期間

令和7年6月9日（月）～6月13日（金）

	6/9（月）	6/10（火）	6/11（水）	6/12（木）	6/13（金）
サンプリング	家庭系一般ごみ 2地区	家庭系一般ごみ 3地区	家庭系粗ごみ 5地区	事業系可燃ごみ	事業系可燃ごみ
分析作業	家庭系一般ごみ	家庭系一般ごみ	家庭系一般ごみ 家庭系粗ごみ	家庭系粗ごみ 事業系可燃ごみ	事業系可燃ごみ

令和7年度調査結果

令和6年度家庭系一般ごみ：50,606トン
（ごみの排出量のうち53.3%）



未利用食品：6,612トン
（R6年度実績）

プラスチック製品：455トン
（R6年度実績）

プラスチック製容器包装：6,629トン
（R6年度実績）

リサイクル可能な紙類：5,056トン
（R6年度実績）

- 厨芥類（生ごみ）が最も多く36.9%、次に紙類が35.1%、プラスチック類が16.1%
- 厨芥類（生ごみ）の中で、未利用食品（食品ロス）が13.1%
- 紙類の中で、新聞紙や紙製容器包装などのリサイクル可能なものが10.0%
- プラスチック類の中で、ペットボトルやプラスチック製容器包装が13.1%、プラスチック製品が0.9%

ごみの組成分析調査結果（家庭系一般ごみ）

令和3年度調査結果

大分類	小分類	重量比
厨芥類	直接廃棄（100%残存）	4.3%
	未利用食品 直接廃棄（50%以上残存）	0.8%
	直接廃棄（50%未満残存）	0.8%
	食べ残し	4.8%
	その他の厨芥類	22.7%
紙類	リサイクル可能な紙類	11.7%
	その他の紙類	17.8%
プラスチック類	プラスチック製容器包装	13.3%
	その他のプラスチック類	3.0%※

令和7年度調査結果

大分類	小分類	重量比
厨芥類	直接廃棄（100%残存）	4.9%
	未利用食品 直接廃棄（50%以上残存）	0.9%
	直接廃棄（50%未満残存）	0.9%
	食べ残し	6.4%
	その他の厨芥類	23.8%
紙類	リサイクル可能な紙類	10.0%
	その他の紙類	25.2%
プラスチック類	プラスチック製容器包装	13.1%
	プラスチック製品	0.9%
	その他のプラスチック類	2.1%

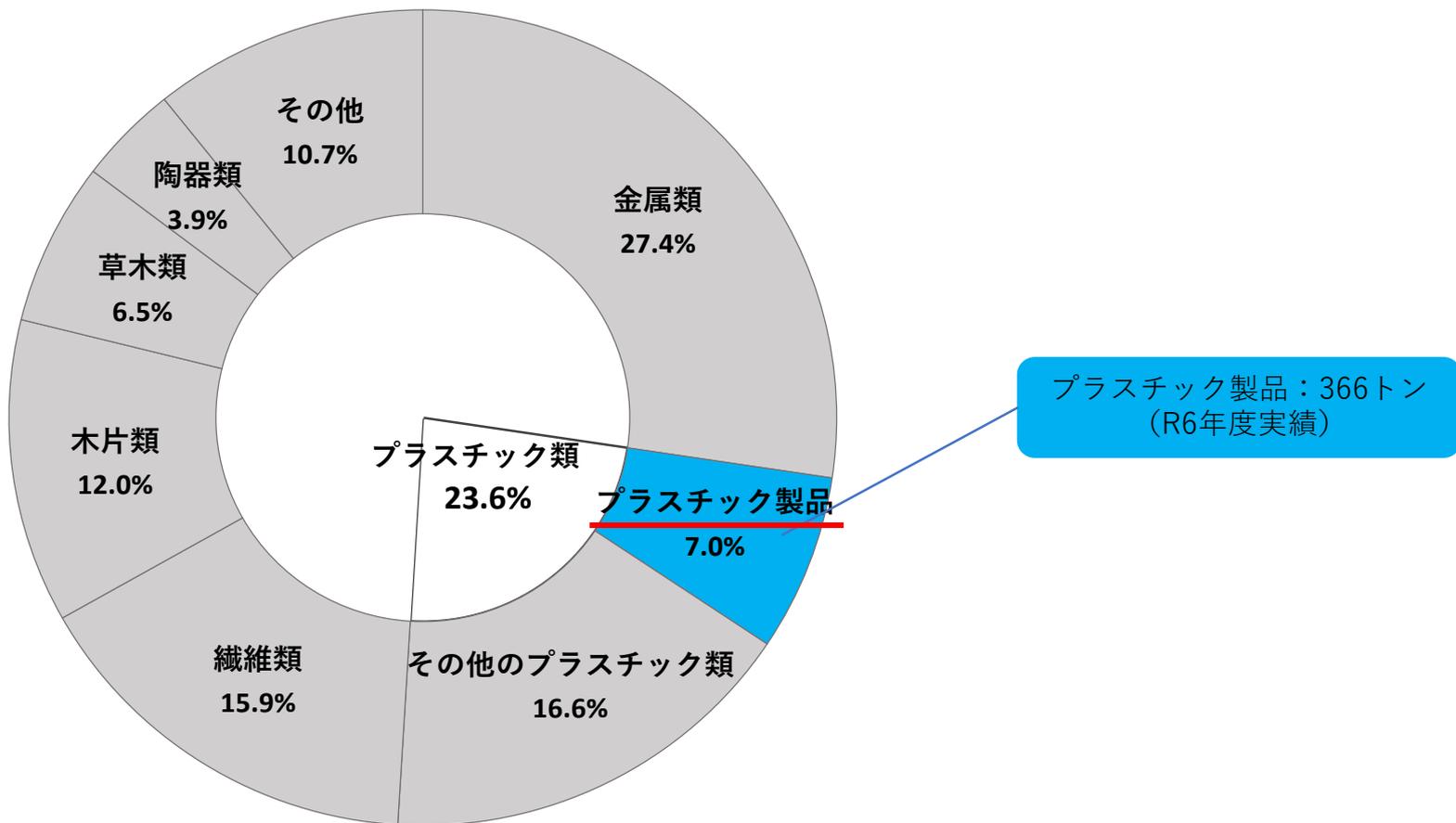
※令和3年度はプラスチック製品とその他のプラスチック類はまとめて調査していたため合算の数値

※ □ は発生抑制またはリサイクルが可能なもの

- 厨芥類（生ごみ）のうち、直接廃棄や食べ残しなど発生抑制が可能なものが10.7%から13.1%に増加
- 紙類のうち、リサイクル可能なものが11.7%から10.0%に減少
- プラスチック類のうち、リサイクル可能なペットボトルやプラスチック製容器包装は13.3%から13.1%でほとんど変わらず

令和7年度調査結果

令和6年度家庭系粗大ごみ:5,225トン
(ごみの排出量のうち5.5%)



- 金属類が最も多く27.4%、次にプラスチック類が23.6%
- プラスチック類の中で、プラスチック製品が7.0%

ごみの組成分析調査結果（家庭系粗ごみ）

令和3年度調査結果

大分類	小分類	重量比
金属類	電池（リチウムイオン電池等）	0.06%
	電池（乾電池・ボタン電池）	1.2%
	小型家電（充電式）	30.6%※
	小型家電（充電式以外）	
	その他の金属類	
プラスチック類	プラスチック類	15.3%※

令和7年度調査結果

大分類	小分類	重量比
金属類	電池（リチウムイオン電池等）	0.04%
	電池（乾電池・ボタン電池）	0.9%
	小型家電（充電式）	0.2%
	小型家電（充電式以外）	8.5%
	その他の金属類	17.8%
プラスチック類	プラスチック製品	7.0%
	その他のプラスチック類	16.6%

※令和3年度は小型家電とその他金属類はまとめて調査していたため合算の数値

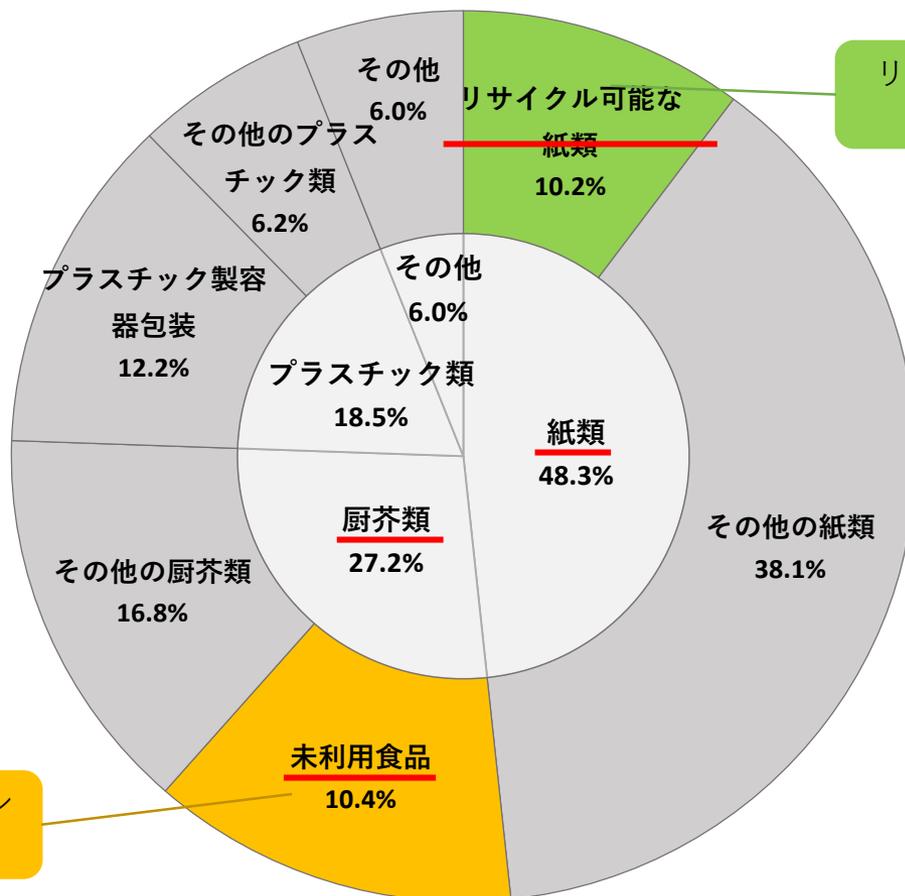
※令和3年度はプラスチック製品とその他のプラスチック類はまとめて調査していたため合算の数値

※ □ はリサイクルが可能なもの

- 金属類のうち、電池（リチウムイオン電池等）は0.06%から0.04%で、電池（乾電池・ボタン電池）は1.2%から0.9%でほとんど変わらず
- プラスチック類のうち、プラスチック資源循環促進法において市町村に資源化が求められているプラスチック製品は7.0%

令和7年度調査結果

令和6年度事業系可燃ごみ:28,771トン
(ごみの排出量のうち30.3%)



リサイクル可能な紙類：2,935トン
(R6年度実績)

未利用食品：2,984トン
(R6年度実績)

- 紙類が最も多く48.3%、次に厨芥類（生ごみ）が27.2%
- 紙類の中で、新聞紙や紙製容器包装などのリサイクル可能なものが10.2%
- 厨芥類（生ごみ）の中で、未利用食品（食品ロス）が10.4%

ごみの組成分析調査結果（事業系可燃ごみ）

令和3年度調査結果

大分類	小分類		重量比
厨芥類	未利用食品	直接廃棄（100%残存）	10.1%
		直接廃棄（50%以上残存）	0.1%
		直接廃棄（50%未満残存）	0.04%
		食べ残し	3.4%
	その他の厨芥類		25.1%
紙類	リサイクル可能な紙類		6.7%
	その他の紙類		19.6%

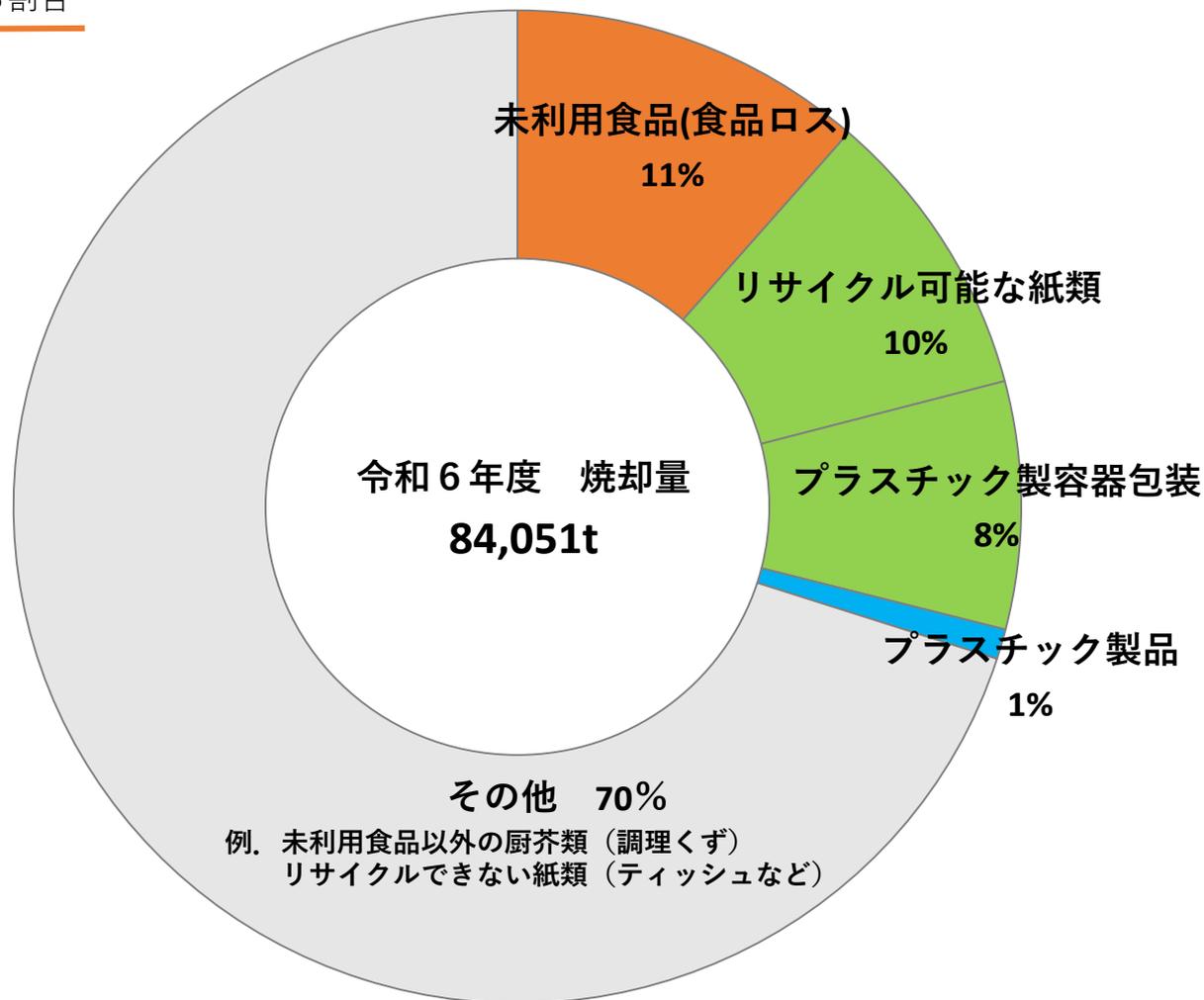
令和7年度調査結果

大分類	小分類		重量比
厨芥類	未利用食品	直接廃棄（100%残存）	6.2%
		直接廃棄（50%以上残存）	0.4%
		直接廃棄（50%未満残存）	0.6%
		食べ残し	3.2%
	その他の厨芥類		16.8%
紙類	リサイクル可能な紙類		10.2%
	その他の紙類		38.1%

※ □ は発生抑制またはリサイクルが可能なもの

- 厨芥類（生ごみ）のうち、直接廃棄や食べ残しなど発生抑制が可能なものが13.6%から10.4%に減少
- 紙類のうち、リサイクル可能なものが6.7%から10.2%に増加

令和6年度焼却量に対する割合



● 令和6年度の焼却量に対して「発生抑制可能またはリサイクル可能なもの」は30%